



故本會名譽會員

サー・ロバート・ハットフィールド小傳

全世界の冶金界は過る月曜日英京倫敦に於て逝去せるサー・ロバート・ハットフィールドの訃報に接し哀悼の意を表するならん。

サー・ロバートは八十才以上の長壽を保ち過去半世紀の間冶金術の進歩に貢献し、卓越せる研究者として數多の成績を挙げ、その數種は絶大なる工學的並に經濟的成果を收めたり、氏の有功なる研究はセフキールドのアツタークリフに位置せる氏の父の會社に關係を持つに至りしに始まりその常務取締役役に就任せしは齡 30 才以前の事にして氏の逝去に際しても尙ほ同社の取締役會長兼常務取締役の位置を保持せり。

此會社は 1914~1918 年歐洲戰役に於ても今次の歐洲事變に際しても國防上多大の貢獻をなせるは合金鋼の發達に對する氏の長年に亘る努力に歸せらるゝ次第なり。

その發明に係はるハットフィールド滿俺鋼は著名なる非磁性鋼にして甚大なる強度と柔軟性を有する事は世間公知の事實にして重工業に對するその應用により機械各部の壽命を數倍せるは顯著なる事實なり又氏が 1889 年英國鐵鋼協會誌に記載せる氏の發明に係るヒステリシス損失の少なき珪素鋼は電氣工業に對し多大の貢獻をなし其後未だ之を置換す可き材料の發見せられざる事も公知の事實にして其他數々の貢獻は枚舉に遑あらざりしを以て英國内は勿論佛蘭西、白耳義、瑞典、米國、日本、蘇聯等より數々の名譽を與へられ多數の學協會の名譽會員及びセフキールド冶金協會、英國鐵鋼協會並にファラデー・ソサイチーの前會長たりしのみならず英國鐵鋼協會のベセマー金牌、ローヤルソサイチー・オブ・アーツのアルバート賞牌、英國海事技術協會のターナー金牌を受領し又學會に於てはローヤルソサイチー會員、セフキールド會員セフキールド大學の冶金博士、オックスフォード及リーズ大學の理學博士物理協會の會員等に擧げられ 1908 年ナイトに敘せられ 1917 年從男爵 (BARONET) を授けられたり、氏は亦精鍊せる實務的知識を有し實業界に於ける意見の發表は常に好感を以て迎へられ従業者に對しては福利増進を念とし率先して一週 48 時間制を採用せり亦氏は佛蘭西愛好者にして機會ある毎に CAP・FERRAT に於ける別荘に消光し第一次歐洲大戰に際してはハットフィールド嬢と共に WIMERAUX に野戰病院を建設し戰後病兵を收容せるもの 2 萬名に達せり、氏の著書の最も著名なるは

METALLURGY & ITS INFLUENCE ON MODERN PROGRESS 及び FARADAY AND HIS METALLURGICAL RESEARCHES WITH SPECIAL REFERENCE TO THEIR BEARING ON DEVELOPMENT OF ALLOY STEELS の二書にして尙ほ多數の學會に 200 頁以上の論文を發表せり。

(以上 THE IRON & COAL TRADE REVIEW 1940. 10. 4 より譯出謹んで哀悼の意を表す)

昭和十六年二月

社團法人 日本鐵鋼協會